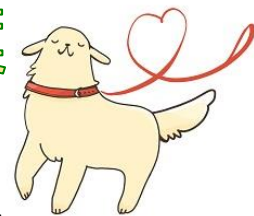


大事に使おう・・・叱り言葉



我が家の近所にいつも玄関先にノーリードでいる中型犬がいます。

別に人や他の犬に襲いかかることもなく

めったに自宅の敷地から外には出ない良い子なので

飼い主さんも安心して鎖やリードは繋がらないことにしているようです。

ただ、たまに下校時の子供が通ると敷地から少しだけ道に出て、愛想をふりまきます。

犬が好きな子供達はニッコリ笑って触っていくのですが、苦手な子供達にとっては

繋がれていない犬が道にでてくることから、

相当怖いらしくキャーキャー言いながら逃げていきます。

子供の騒ぐ声が聞こえると飼い主さんは家から出てきて「イケナイ！」と叱りながら

その犬をすぐに呼び戻します。人は大好きで近寄っていく犬ですが

他の犬は大嫌いなようで他の犬が自宅に近寄ってくると玄関先で、もの凄い剣幕で吠えます。

気が強いわけではなく、むしろ逆で敷地の中から吠えている分には安全なことが

分かっているようです。

その道を通る他の犬とその飼い主も、小走りに逃げ去るように離れていきます。

そのよく吠える犬が吠え出すと、やはり同じように飼い主さんは家から出てきて

「イケナイ！」と強く叱り、庭の方に引きずって行き

相手が遠くに立ち去ったのを見て、また玄関先に離しておきます。

ここ数年は、そんな光景が繰り返されていますが、一向に吠えるのを止めようとはしません。

私もたまにその道を愛犬を連れて通ることがあります。

吠えられるたびに、だんだんその犬が可哀相に思えてきます。

ここ数年を見る限り、1日に最低10回は「イケナイ！」と叱られていると思うのです。

1日に10回叱られるということは、1年に3650回叱られます。

仮に15歳まで生きるとしたら、54750回叱られることになります。

もし、リードに繋いでさえいれば、家の中か、せめて庭側に置くだけで

一生に5万回叱られずに済むのです。

大きな声で毎日叱っても、一向に直らないのもやむを得ません。

犬の方が飼い主さんの「イケナイ！」にすっかり慣れてしまい

『しまった』とも『申し訳ない』とも思わなくなっているのです。

犬にとって飼い主さんの「イケナイ！」は、単なる口癖のように感じているかもしれません。

普段、大好きで優しいはずの人が不快な顔をして「イケナイ！」というから、

犬も焦るし、『どうしたの?』となり

『あっ、これは大好きな飼い主さんが嫌がる行動なんだあ』と思うのです。

愛犬の教育というのは、親が小さな子供を育てる時と同じです。

面白くないことがあったとしても、通常親は子供に八つ当たりはしません。

「やめなさい！」が口癖になっている親はたまに見かけますが

子供の方もその言葉は親の口癖だと感じ、あまり止めよう直そうとはしません。

イケナイことを止めさせたい時は、しっかりした言葉とキリリとした表情でしっかり叱ります。

そして、その叱りの効果を上げるためには、日頃からなるべく叱らないように

心がけておくことなのです。リードで繋いでおくだけで叱らなくて済みますし

居間の小物を床に置いておかなければ壊されずにも叱らずにも済みます。

台所の床も日頃から綺麗にしておけば、舐めてヨダレだらけにすることもなくなりますし

なにかを食べそうになって叱ることもなくなります。

「イケナイ！」をよく効き目のある言葉にするためには

いかに普段からこの言葉を使わず

とっておきの言葉に出来るかどうか大切です。



2022年5月

NPO法人ワンワンパーティークラブ 三浦 健太 著